

戦国時代と池田家の成立

静岡大学名誉教授・文学博士
小和田 哲男

はじめに

1. 苗字の地 池田荘はどこか

- 美濃国池田荘（岐阜県多治見市）説
- 摂津国池田荘（大阪府池田市）説
- 尾張国池田郷（愛知県小牧市）説

2. 池田氏の概略

池田氏 いけだし

近世の大名(外様[※])。源頼光[※]の玄孫泰政が、美濃池田郡池田荘(岐阜県多治見市)に居住して池田氏を称したのにはじまるという。しかし池田氏の出自には不明なおおおく、戦国時代、恒利[※]が織田信秀につかえたころからでなければ確実なことはわからない。恒利の妻が織田信長の乳母となったことから、子恒興[※]は乳兄弟として信長につかえ、信長死後は豊臣秀吉にしたがった。

その子輝政は徳川家康の次女督姫[※](良正院)を継室にむかえ、関ヶ原の戦いでは東軍の先鋒として活躍。その功により播磨[※](兵庫県)52万石をあたえられたほか、備前(岡山県)28万石、淡路[※](兵庫県)6万石を加増され、俗に「姫路宰相百万石」と称された。輝政の遺領は、嫡男利隆が播磨を、次男忠継[※]が備前を、3男忠雄[※]が淡路を継承した。

利隆の死後、子光政は幼少ということで要衝の地播磨から因幡[※](鳥取県)に転封となったが、のち備前と因幡との国替えを命じられ、従弟の光仲が備前から因幡へ転封となった。以後、光政の系統が備前岡山藩主となり、光仲の系統が因幡鳥取藩主となって明治にいたった。明治17年(1884)章政[※]、輝知[※]が侯爵。

なお、光政の子政言[※]・輝録[※]は備中[※](岡山県)鴨方[※]・生坂[※]を、光仲の子仲澄[※]・清定は因幡東館[※]・西館をそれぞれ分与されて明治にいたった。明治17年(1884)政保[※]、政礼[※]、源[※]、徳定[※]が子爵。(小和田哲男)

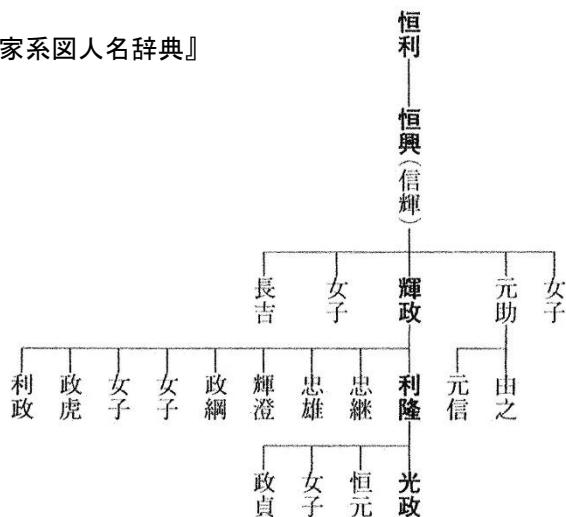


備前蝶



因州蝶

小和田哲男監修 『日本史諸家系図人名辞典』



池田氏系図

3. 池田恒興（1536～84）の活躍

織田信長の乳兄弟（母養徳院が信長の乳母）

摂津有岡城・花隈城攻め 天正7年（1579）

山崎の戦いで羽柴秀吉に味方

清洲会議のメンバーに

賤ヶ岳の戦い後 摂津から尾張へ国替え

小牧・長久手の戦いで討ち死に 天正12年（1584）4月9日



小和田哲男著『戦国合戦事典』

4. 池田輝政（1564～1613）の活躍

美濃大垣城 → 美濃岐阜城 → 三河吉田城

徳川家康の娘 督姫を娶る

関ヶ原の戦いでの軍功

姫路城を築く 「姫路宰相百万石」

おわりに